

2. アカエゾマツ林の成長と土壌条件

1. 試験担当者

北海道支庁造林部土壌研究室長 原 田 洗ほか

2. 試験目的

従来トドマツ林の土壌条件については、系統だった調査研究がおこなわれ、トドマツの適地判定技術の向上に役立ってきたが、アカエゾマツ林については断片的に1～2の調査がおこなわれただけである。アカエゾマツは環境条件の良好な所に成立したものはトドマツに匹敵するよい生長を示し、さらにトドマツにくらべると特異な環境条件下にも耐えて生長する木である。

一方、アカエゾマツ林の土壌にはポドゾル化したものが多い。今後アカエゾマツの造林面積は年々拡大されるものと思われるのでアカエゾマツ林の生長と土壌の諸条件を解明した適地判定の資料を得る。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

昨年度は余市（第三紀に由来するBC型およびBD(d)型土壌）、北見（第三紀に由来するBD(d)型土壌）、標津（火山灰に由来するBd型土壌）の37年生アカエゾマツ林を調査した。

余市のBC土壌ではアカエゾマツの成長は非常に悪かった。この土壌は表層から堅密で最小容気量小さく透水性も劣る。

北見、標津のアカエゾマツは良い成長をしているが、トドマツにくらべると多少落ちる。林木の生長と養分吸収量については分析終了したが、土壌分析は目下続行中である。

4. 昭和45年度の試験計画

弟子屈営林署管内の25～35年生アカエゾマツ林と、隣接のトドマツ林を比較調査する。
札幌営林署管内で、アカエゾマツの幼令造林地を林令別に調査する。